

一

出典 掛谷英紀『学者の暴走』（扶桑社 2021年）

「学者は本当に信用できるのか」という問題意識に立ち、現代の学术界の内側に潜む様々な問題点について考察した本です。そもそも「科学」とは何かその定義から説き起こしながら「科学」の方法について解説する本文は論旨も明確であり、文意を掴むのは難しくありません。

問1【漢字の書き取りの問題】（解答番号は①～⑦）

正答は次の通りです。

a 徹底 b 模索 c 包含 d 頑健性 e 聖職者 f 羅列 g 飛躍的

全問正答率は1%でした。eは比較的書けていましたが、dが不出来でした。bの「模索」を「模策」と書く誤答やdの「頑健性」を「頑堅性」と書くような誤答が散見されました。

問2【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ問題】（解答番号は⑧・⑨）

空欄Ⅰについては直前の「法則の数理的連続性の仮定があってはじめて」がヒントとなり、「正しく理論づける」ということを意味する正答⑧を導けるでしょう。空欄Ⅱについては直前の「わずかな数の法則に」を踏まえれば正答は⑦だと分かるはずです。正答率はそれぞれ78%、62%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適当なものを選ぶ問題】（解答番号は⑩）

空欄乙の次の行で著者は理論について考えると宣言しています。そのことと傍線部bがある行の「もう一つは、得られた膨大な観察結果を統一的に説明する理論」が最大のヒントとなります。正答は⑨で、正答率は22%でした。空欄の周囲だけを読むのではなく、本文全体を丹念に読みながら解答する姿勢が大切です。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑪）

傍線部Aの直後にある「実験や観察によって仮説が正しいか否かが検証されなければならないという考えである」がヒントです。正答は③で、正答率は43%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑫）

傍線部Bの2つ前の段落から、著者は科学の十分条件について言及し始めています。そのことを踏まえた上で、傍線部Bの直後の説明を読み取れば正答は⑤であると分かるはずです。正答率は58%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑬）

傍線部Cの3つ前の段落から行っている著者の科学の命題に関する説明を確実に押さえ、各選択肢の記述を丹念に読みましょう。正答は④で、正答率は20%でした。全受験生の40%が①を選択していましたが、「科学における実験や観察」は「仮定によって成り立っている」というような主旨は本文では全く書かれておらず不正解です。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑭）

傍線部Dの次の段落で著者は「厄介な問題」について説明しています。その内容を正確に読み

取りさえすれば正答は⑥であると分かります。正答率は50%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は15）

筆者は傍線部Eの直後で「理論が必要」である理由について説明しています。このことに気付けば正答が②であると分かります。正答率は51%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は16）

傍線部Fの直前の段落で著者は「その信念」について説明しており、更に傍線部Fの直後で「根拠」についての説明を展開しています。このことを踏まえて各選択肢を読めば正答を導出するのは難しくありません。正答は①で、正答率は71%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は17）

傍線部Gの2行前から著者が行っている説明を丹念に読みさえすれば、正答が⑤であると分かるでしょう。正答率は80%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は18）

傍線部Hの前後で著者が説明していることを正確に理解することが重要です。正答は④で、正答率は47%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は19）

空欄 の次の行の1文が最大のヒントです。この節で著者はまさに科学における方法論について詳しく説明しています。正答は⑤で、正答率は12%でした。全受験生の38%が①を選択していました。再現性から普遍性が導かれることはあっても、普遍性から再現性が生まれることは論理的にあり得ず、本文の内容からも外れています。

問13【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は20）

この節では著者理論について説明を始め、科学法則が成立するにはどのような仮定を加えていく必要があるかについて詳しく述べています。正答は⑦で、正答率は21%でした。

問14【内容合致問題】（解答番号は21）

正答は⑥で、正答率は14%でした。⑥に該当する内容は傍線部eを含む段落に書かれています。①、⑤、⑧、⑨を選択した受験生がそれぞれ全体の13~18%いました。①については「コペルニクス、ガリレオ、ケプラー」が「電磁気学、熱力学に携わっていた」「古典物理学者」であるとは本文に書かれていません。⑤に関しては本文での説明は「距離の二乗根」ではなく「距離の二乗」ですから不正解です。⑧は「再現性の仮定…があってはじめて」が本文の内容に合致しません。「過去と未来で現象を支配する法則に変化はない」というのは「法則の数理的連続性の仮定」ではありませんから、⑨も不正解です。内容合致問題については本文を正確に読み取ることが何よりも大切です。

出典 今井むつみ・秋田喜美「言語の本質」(中央公論新社 2023年)

オノマトペの特徴について説明した文章です。読解に当たっては本文中の対比関係に注意する必要があります。視覚的な対象を視覚の媒体で表すのが普通であるアイコンと異なり、オノマトペは聴覚的要素を用いるため、基本的に物事の一部しか音で写すことができず、残りの部分は換喩的思考で補うことになる、という本文の主旨を丁寧に読み取りましょう。

問1【漢字の読み・書き取りの問題】(解答番号は22～27)

正答は次の通りです。

a かんだか b 内在 c 偶像 d 点滅 e 曖昧 f 輪郭

漢字は部首の乱れ、字形・字体のバランスの崩れがないように書き取りましょう。全問正答率は3%でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ問題】(解答番号は28～30)

空欄Ⅰには2行前の内容から「ひとめ見ただけで明確にわかる」という意味の「一目瞭然」が入ると分かるでしょう。空欄Ⅱについては前後の文脈に出てくる「似ている」という言葉がヒントになります。空欄Ⅲは空欄アの2行前にある「聴覚的要素」に密接に関わるものを選択すれば正答を導けます。正答はそれぞれ⑤、③、②です。正答率はそれぞれ96%、58%、19%でした。

問3【空欄補充・文脈把握に関する問題】(解答番号は31)

正答は④です。空欄アの次の段落で視覚的アイコンとオノマトペを対比し、「音声で写すことができるのは、基本的に物事の一部である」と説明されています。正答率は84%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は32)

正答は⑤です。傍線部Aの直前の段落から、オノマトペの特徴を正確に読み取りましょう。正答率は56%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は33)

正答は②です。傍線部Bに続く3つの段落を丁寧に読めば正答が導けます。正答率は77%でした。

問6【本文の内容に該当しないものを選ぶ問題】(解答番号は34)

正答は④です。正答を導くには傍線部Cを含む段落に記されている「絵画」の説明を正確に読み取ることが必要です。正答率は76%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は35)

正答は⑤です。「アイコン」については、傍線部Dの前後で説明されています。傍線部Dの直前にある「まさにこの」という表現を手がかりとして、1つ前の段落の「かなり抽象化しているのに、対象がわかりやすい」という内容を押さえましょう。また、傍線部Dを含む段落の内

容から「アイコン」の説明を読み取ることも大切です。正答率は53%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **36**）

正答は③です。傍線部 **E** 直前に「いずれの例においても」とあり、アイコンが視覚化して表現できるものは複数あることが分かります。正答率は63%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **37**）

正答は④です。「換喩」について説明されている傍線部 **f** を含む段落と傍線部 **F** を含む段落、更に本文最後の段落を正確に読み取ることにより正答が導けます。正答率は60%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **38**）

正答は②です。傍線部 **G** の直後「オノマトペは言語である」という表現から、オノマトペの根本的性質に注目しましょう。また、その性質は傍線部 **G** を含む段落の次の段落で説明されています。正答率は47%でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は **39**）

正答は⑧です。傍線部 **f** を含む段落の内容と合致します。③と④を選んだ受験生がそれぞれ全体の15%、11%いました。③は後半「その補い方は～共通して持つことができる」が本文の内容に合致しません。④については「万国共通の理解を有している」が本文の内容と異なります。正答率は32%でした。